



資料 1



コロナ禍における全国の教育旅行の動向

北海道観光振興機構
国内誘客部教育旅行担当 長野 博樹

北海道教育旅行活性化事業はどんなことをしている？



- ①教育旅行関係者の招へい（教員・旅行会社・関係団体）
- ②教職員下見のサポート
- ③教育旅行説明会の開催
- ④教育旅行ガイドブックの製作
- ⑤教育アドバイザーの派遣・保護者説明会のサポート
- ⑥教育旅行サイト・PR動画の作成
- ⑦学校、旅行会社、教育旅行関係団体への訪問
- ⑧調査事業
- ⑨訪日教育旅行の誘致



<教育旅行説明会の様子>



<アドバイザー派遣の様子>

2020年度修学旅行実施状況

①

(日本修学旅行協会データブック2021参照)

【北海道内校の修学旅行の状況】

- 小学校 ほぼ100%
- 中学校 91.9% (私立中学校が一部中止) 実施率は全国3位
- 高等学校 46.8% 実施率は全国5位

中学校【全国の地区別実施率】

○東北	58.9%	○関東	24.8%	○中部	70.6%
○近畿	62.0%	○中国	24.5%	○四国	57.1%
○九州	54.5%	○沖縄	62.5%		

高等学校【全国の地区別実施率】

○東北	21.5%	○関東	10.6%	○中部	39.7%
○近畿	31.5%	○中国	17.6%	○四国	25.0%
○九州	20.7%	○沖縄	0%		



2020年度修学旅行実施状況

②

(日本修学旅行協会データブック2021参照)

【中学校旅行先上位 () は2019年度】

- 1位 京都 (1位) 2位 奈良 (2位) 2位 山梨 (13位)
- 4位 長野 (16位) 5位 北海道 (12位) 6位 三重 (ランク外)

【高等学校旅行先上位 () は2019年度】

- 1位 長崎 (9位) 2位 沖縄 (1位) 3位 広島 (11位)
- 4位 大阪 (2位) 5位 北海道 (7位) 6位 兵庫 (8位)

【中学校宿泊地上位 () は2019年度】

- 1位 京都 (1位) 2位 北海道 (7位) 2位 山梨 (ランク外)
- 4位 長野 (10位) 5位 長崎 (6位) 6位 岩手 (ランク外)

【高等学校宿泊地上位 () は2019年度】

- 1位 沖縄 (1位) 2位 北海道 (2位) 3位 長崎 (7位)
- 4位 鹿児島 (ランク外) 5位 京都 (3位) 6位 広島 (9位)



【中学校 重点を置いた活動内容 () は2019年度】

- 1位 遺跡・史跡・文化財・寺社の見学 (1位)
- 2位 自然や野外活動体験 (11位)
- 3位 水族館、動物園、自然、科学系博物館の見学 (9位)
- 4位 伝統的町並みや建造物群保存地区の見学 (2位)

【高等学校 重点を置いた活動内容 () は2019年度】

- 1位 遺跡・史跡・文化財・寺社の見学 (1位)
- 2位 平和学習 (2位)
- 3位 水族館、動物園、自然、科学系博物館の見学 (ランク外)
- 4位 伝統的町並みや建造物群保存地区の見学 (5位)



国内修学旅行を実施しない理由（高等学校）

- 1位 訪問地域の安全性への懸念
- 2位 感染者が発生して場合の対応懸念
- 3位 保護者の意向
- 4位 学校所在地での安全性への懸念
- 5位 想定した計画が実施できない

2022年度の修学旅行はどうか？



結論 … 新型コロナウイルス感染状況次第のため判らない

しかし

- ①新型コロナウイルスの傾向が少しずつ判明してきた
- ②ワクチン接種の見通しが見えてきた
- ③交通機関や宿泊施設の対策がしっかりされてきている
- ④2020年に実施した修学旅行中での感染が非常に少なかった
- ⑤今年こそは生徒のために実施させたいと思っている学校が多い



2021年度に比べ来道数は増えることが予想される

関東や関西などの大都市圏での修学旅行は敬遠されがち

感染リスクの少ない地域を求めている

海外で修学旅行を実施していた学校が行先を求めている（沖縄・九州・東北・**北海道**）

2021年の実施傾向



- 私立校の実施率が極めて低い
- 全国的にファームステイをはじめ民泊は受け入れを中止している
- 海外修学旅行は中止しているため新規で北海道修学旅行を実施する学校が増えている。
- 東北、関東からの中学校、高等学校の北海道修学旅行が増えている
- 札幌宿泊の修学旅行が激減している
- 緊急事態宣言などの影響で実施時期が大きく変更されている
- できるだけ密を避けるため自然体験等が増えている
- 文部科学省では修学旅行は安易に中止せず実施に努めるよう通達している

北海道への誘致に向けてこれからすべきことは？



- 地域間での受入体制の見直しと整備
- 修学旅行の形態変化を見極める（滞在型、SDGsを学ぶ）
- 短期、長期のビジョンを明確にする
- 国内旅行客、インバウンド、修学旅行などバランスのとれた受け入れ
- 道外小規模校の受け入れ拡大
- 多様なコンテンツの発掘と開発
- 他県や受入成功地域の情報収集

